

第41回 日本産婦人科感染症学会学術集会

2025

6/1

日

12:00~12:50

第2会場 (宮崎市民プラザ 4階 ギャラリー1)

先天性サイトメガロウイルス感染
スクリーニングの
現状と展望

座長

金子 政時 先生
宮崎大学大学院 看護学研究科 教授先天性サイトメガロウイルス感染
スクリーニングとカウンセリングにおける留意点

演者

谷村 憲司 先生
神戸大学大学院 産科婦人科学分野
産科生殖医学部門 特命教授

新生児CMV感染 マスクリーニングの導入と現状

演者

川名 有紀子 先生
総合母子保健センター愛育病院 産婦人科 部長

共催

第41回日本産婦人科感染症学会学術集会

株式会社 シノテスト

先天性サイトメガロウイルス感染 スクリーニングとカウンセリングにおける留意点

神戸大学 谷村 憲司 先生

サイトメガロウイルス（CMV）は初感染妊婦だけではなく、非初感染妊婦においても再感染や再活性化により、児に重篤な神経学的後遺症を残す先天性CMV感染（cCMV）を引き起こす。2023年3月にバルガンシクロビルの症候性cCMVに対する適用追加が承認され、cCMVを出生後早期に診断することの重要性は増している。しかし、これまで広く用いられてきた血清学的検査による妊婦スクリーニングでは非初感染妊婦からのcCMV発生リスクを評価することが出来ない。さらにpersistent IgMやIgM偽陽性は稀ではなく、妊婦に過度の不安を抱かせてしまう危険性がある。

我々の施設では、母子感染症外来を開設し、妊婦やその家族にTORCH関連のカウンセリングを行っており、中でもCMV IgM陽性（CMV初感染疑い）を理由とした紹介が最も多い。しかし、カウンセリングによって妊婦の不安を煽ることになれば、不必要な妊娠中断が選択されることにもなりかねない。本講演では、自施設の母子感染外来の現状を紹介しつつ、cCMVに関するカウンセリングの要点や留意点について解説する。

新生児CMV感染 マススクリーニングの導入と現状

愛育病院 川名 有紀子 先生

サイトメガロウイルス（CMV）による母子感染はTORCH症候群の中で最も頻度が高く、日本では新生児300人に1人が先天性CMV感染を起こし、1000人に1人が症候性感染児として出生する。近年の報告では先天性感染児の70%が非初感染妊婦より出生し、初感染妊婦と非初感染妊婦からの先天性感染児の症状と後遺症は同程度であることが明らかになった。

当院は年間2400件程度の分娩を取り扱う総合周産期センターである。2024年7月より新生児CMV感染マススクリーニングを導入したので当院の現状にて報告する。当院では、妊娠初期にCMV感染予防の啓発を行い、希望者にCMV抗体検査を行っている。本検査導入後は、妊娠後期に新生児CMV感染マススクリーニングについての情報提供を行い、希望者に新生児尿検査を行う流れとした。2025年1月までの出生1369例のうち検査希望者は1193例（87%）であった。そのうち陽性者は6例（0.5%）であり、すべて確認検査陽性であった。6例のうち1例で妊娠初期のCMV抗体検査が行われており、非初感染妊婦であることが確認された。確定診断後、全例大学病院小児科神経先天感染外来での精査を依頼し、1例が感音性難聴と診断されVGCV投与が開始された。